お客様事例

クルマの所有＆利用に新たな可能性を提示。個人間カーシェアリングサービス「GO2GO」の運転評価機能をIBM IoT Connected Vehicle Insightsで実現

IDOMは現在、CaaS（Car as a Service：サービスとしてのクルマ）時代の新サービスとして、クルマを簡単に貸し借りできる個人間カーシェアリング「GO2GO（ゴーツーゴー）」の提供に力を入れています。同サービスおいて、クルマのオーナーと利用者が安心して利用できる世界を作るうえで鍵となるのが、利用者の運転傾向を分析してクルマのオーナーに事前に提示し、貸出可否の判断を支援する「運転評価機能」です。同社はこの機能をIBMのコネクテッド・ビークルとモビリティ・サービス実現のためのプラットフォーム「IBM IoT Connected Vehicle Insights」によって実現しています。

［導入製品・サービス］ IBM IoT Connected Vehicle Insights

課題

- クルマのオーナーに対し、利用者のドライブレーティング情報を事前に提示して貸出可否の判断を支援する「運転評価機能」を提供する

ソリューション

- IBM IoT Connected Vehicle Insightsにより、スマートフォンアプリで収集した走行情報データを分析する運転評価機能を実装

効果

- 運転評価機能の実現により、GO2GOが指す“近所のクルマを安心、簡単、遠慮なく使えるサービス”の基礎を確立

[お客様課題]

既存事業の強みも活かして
個人間カーシェアリングサービスに参入

中古車市場に流通革命を起こすべく、ガレージから創業した株式会社IDOM（イドム。以下、IDOM）。同社は査定基準などを徹底して透明化した中古車買取・販売店「ガリバー」の全国展開により、取引価格の基準が不透明だった中古車業界に大きな変革をもたらしました。その後も全国を網羅した画像（写真）による中古車販売システム「ドルフィネット」や中古車への「10年保証」などの導入で変革を起こし続けてきた同社が現在、新たに挑んでいるのが“近所のクルマを安心、簡単、遠慮なく使える”をキャッチフレーズとする個人間カーシェアリングサービス「GO2GO」です。

GO2GOでは、クルマの貸主であるオーナーが、貸したいクルマの詳細や料金などの情報をサービスに登録します。クルマの利用者は、これらの情報をスマートフォンのGO2GOアプリで確認し、借りたいクルマを選んで予約リクエストを送ります。それを受けたオーナーは、クルマを貸すかどうかを判断したうえで実際の貸し借りが行われるという仕組みです。

IDOMが新たにカーシェアリングサービスに参入した経緯について、GO2GO事業を統括する同社の新森亮氏（CaaS事業部 GO2GO責任者）は次のように話します。

「近年、“所有から利用へ”と顧客ニーズが変化する中で、移動手段（Mobility）をサービスとして捉え、それを利用者一人ひとりに最適化するMaaS（Mobility as a Service）という考え方が登場してきました。この動きはクルマの世界にもCaaS（Car as a Service：サービスとしてのクルマ）として波及しています。ただし、私たちは全てのクルマがサービス化されるとは考えていません。ユーザーの事情に応じて所有と利用のそれぞれを最適なタイミングでご提案していくことがCaaS時代の肝であり、当社がやるべきことだと考えています」（新森氏）

GO2GOの特徴は、IDOMの既存事業のお客様である“中古車オーナー”の観点からサービスを構想している点です。これらのお客様の中には経済合理性を重視して中古車を選ばれるケースが少なくありません。

しかし一方で、税金や保険などの維持費に高い駐車場代が加わり、クルマを所有することの負担は高まり続けています。

「もしクルマを使っていないときに貸し出せるサービスがあれば、オーナー様の負担を軽減できます。クルマの所有を諦めていた方も持てるようになるかもしれませんし、持たずにサービスとして利用したい方々を当社の新たなお客様としてお迎えできます」（新森氏）

同社は2018年夏より、サービスの具体的な企画とシステムの設計・開発を開始しました。

CVIなら、当社が描くドライブレーティングの実現に必要な機能を全てクラウドサービスとして利用できます。また、IBMには運転評価機能の具体的な検討を始めた当初から相談に乗ってもらい、同機能をサービス提供していくうえでの“文脈作り”も含めて助言をいただきました。

株式会社IDOM
CaaS事業部
GO2GO責任者
新森 亮氏

[ソリューション]

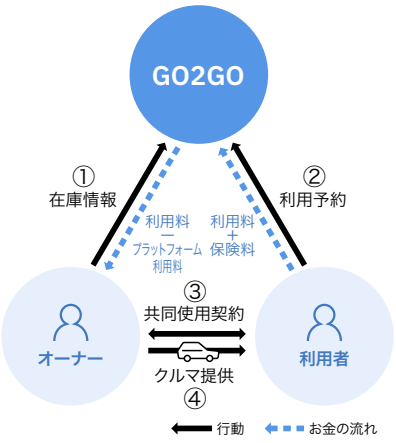
クルマの貸し借りで安心を担保する運転評価機能を
IBM IoT Connected Vehicle Insightsで実現

先行する競合サービスもある中でGO2GOをより魅力あるものとすべく、サービスメニューの作り込みを進めるIDOMが強く意識したことの1つが「オーナーが安心してクルマを貸せるサービス」にすることでした。

「国内の個人間カーシェアリングに関しては現状、需要と供給のバランスが全くとれていません。クルマを借りたい人が沢山いるのに対し、貸し手は10分の1程度です。その理由は、クルマを貸すことに対してオーナーの皆様がリスクや不安を感じているからです」（新森氏）

このリスクや不安を解消する施策として、GO2GOでは全国に約550店を構えるガリバー店舗を利用した「実店舗での貸し出し車両の受け渡しサポート」や「登録車両に対する実店舗でのメンテナンスサポート」など、既存事業を生かしたメニューの提供を計画。また、これらに加えて新森氏らが実現を求めたのが、クルマの利用者の「運転評価機能」でした。

**GO2GOの
ビジネススキーム概要**



「安心してサービスを利用いただくために、利用者がどのような運転をしてきた方なのかを評価してオーナー様に伝えるドライブレーティング機能が必要でした」（新森氏）

この機能を実現するためには、各種センサーでクルマの走行状況に関するデータを取得し、分析する仕組みが必要です。IDOMはベンダー各社のさまざまなソリューションを検討・比較した末、2019年4月にIBMのコネクテッド・ビークルとモビリティ・サービス実現のためのプラットフォーム「IBM IoT Connected Vehicle Insights（以下、CVI）」の採用を決めます。その理由として、新森氏はCVIの機能の豊富さと、企画段階からのIBMの貢献を挙げます。

「CVIなら、当社が描くドライブレーティングの実現に必要な機能を全てクラウドサービスとして利用できます。また、IBMには運転評価機能の具体的な検討を始めた当初から相談に乗ってもらい、同機能をサービス提供していくうえでの“文脈作り”も含めて助言をいただきました。さらに、将来に向けたビジネスの展開案を支援体制とともに提案いただいたことも大きな評価ポイントとなりました」（新森氏）

CVIは設定した評価基準に対して常にブレることなく分析結果が返ってきます。動作も安定しているため、評価基準の一部を変えながらの検証もやりやすいと感じています。

株式会社IDOM
IDOM Technology
新規事業推進セクション
Technology Director
山城 宏二郎氏

【効果/将来の展望】

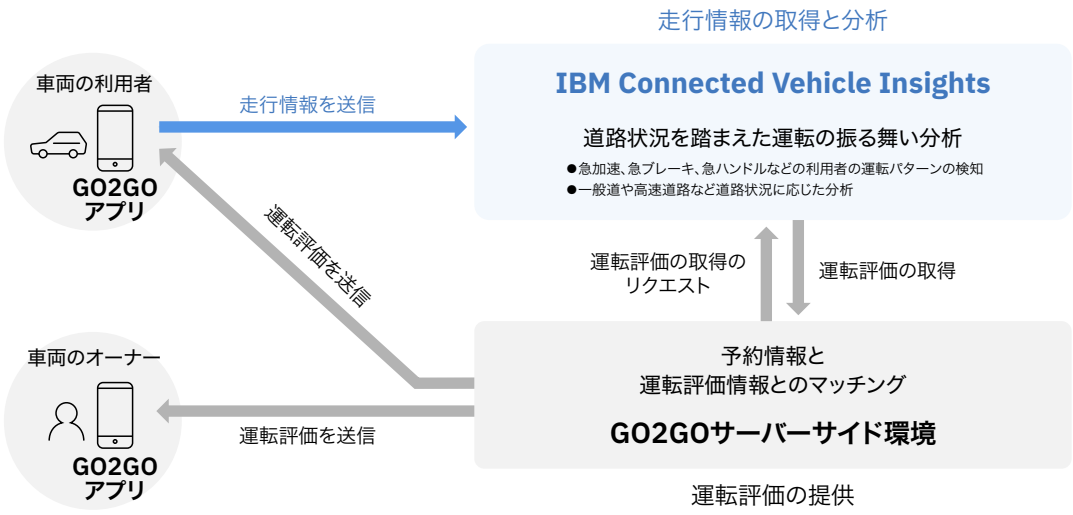
CVIの使いやすさ、分析能力を高く評価。今後はドライブレーティングを中古車査定の新評価ポイントに

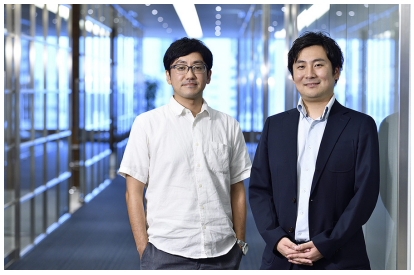
CVIの採用を決めたIDOMは、運転評価機能の開発をスタートします。この機能は、スマートフォンのGO2GOアプリがGPSや加速度、ジャイロなどの各種センサーから取得した走行情報をCVIに送信。データを受け取ったCVIが運転ルートや運転時の振る舞い（急ブレーキや急加速、一時停止無視など）を分析し、その結果をGO2GOシステムに渡すという仕組みで動作します。

システム開発を担当する山城宏二郎氏（IDOM Technology 新規事業推進セクション Technology Director）は、「フレームワークとしてしっかりと作られており、使用に際して迷うようなことはありませんでした」とCVIを高く評価します。

「初めに、どのくらいの加速を急発進、どの程度のブレーキを急ブレーキとして扱うかの評価基準を決めたうえでCVIに走行情報データを渡して分析させるのですが、設定した基準に対して常にブレることなく分析結果が返ってきます。動作も安定しているため、評価基準の一部を変えながらの検証もやりやすいと感じています」（山城氏）

GO2GOとCVIのシステム連携





左から山城氏、新森氏

こうしてサービスの要となる機能の開発を進める一方、サービスインに向けてクルマを貸し出すオーナーや利用者の登録数も順調に増えています。「まずは多くの方にご利用いただき、アプリやサービスの使い勝手について沢山のフィードバックをいただきたいですね。また、GO2GOを利用することによって安全運転を心掛ける方が1人でも増えたら嬉しいです」と山城氏は話します。

一方、GO2GOで導入したドライブレーティングは今後、中古車の状態を判断する新たな評価ポイントになるのではないかと新森氏は話します。

「GO2GOへの貸し出しで蓄積されるレーティング情報が買取事業者の査定項目として普及したら、これをクルマの査定レベルを上げるために活用するオーナー様も出てくるかもしれません」（新森氏）

また、GO2GOで借りたクルマを気に入った利用者が、IDOMが提供するクルマの定額制乗換サービス「NOREL（ノレル）」で短期的に所有したり、ガリバーで中古車を購入し、それをGO2GOで貸し出して所有コストを抑えたりといったケースも出てくるでしょう。このようにクルマの所有と利用の間を自在に往き来するスタイルこそ、IDOMがカーシェアリング事業への参入で目指す世界だと新森氏は強調します。

「GO2GOサービスの展開においては、“データ”が極めて重要なポイントの1つとなります。現在はレーティングを軸にしていますが、今後は別の観点のデータで新たな価値創出を目指すこともあるでしょう。IBMにはそんな私たちと常に並走し、相談や議論を重ねながらサービスの磨き込みにお付き合いいただきたいと思っています」（新森氏）

クルマと人の関係の本質を捉え、常に新たな価値提案を続けるIDOM。そんな同社ならではのサービスこそ、CaaS時代を迎えたクルマ社会の発展に不可欠なのです。

IDOM Inc.

株式会社IDOM

〒100-6425 東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビルディング25階
https://www.idom-inc.com/

株式会社IDOMは、1994年に創業し、中古車店「ガリバー」の全国展開などにより事業を大きく拡大してきました。近年はオーストラリアの大手ディーラーグループを買収し、海外事業も本格化。さらに、ITとビジネスを融合した新サービスの開発を進め、乗り換え自由の月額定額制サービス「NOREL」や個人間中古車オークションサービス「ガリバーフリマ」、個人間カーシェアリングサービス「GO2GO」などの提供を開始しています。

©Copyright IBM Japan, Ltd. 2019
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21
このカタログの情報は2019年10月現在のものです。仕様は予告なく変更される場合があります。記載の事例は特定のお客様に関するものであり、全ての場合において同等の効果が得られることを意味するものではありません。効果はお客様の環境その他の要因によって異なります。製品、サービスなどの詳細については、弊社もしくはビジネス・パートナーの営業担当員にご相談ください。IBM、IBMロゴ、ibm.com、WatsonおよびWatson IoTは、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corp.の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBM商標リストについてはwww.ibm.com/legal/copytrade.shtmlをご覧ください。